

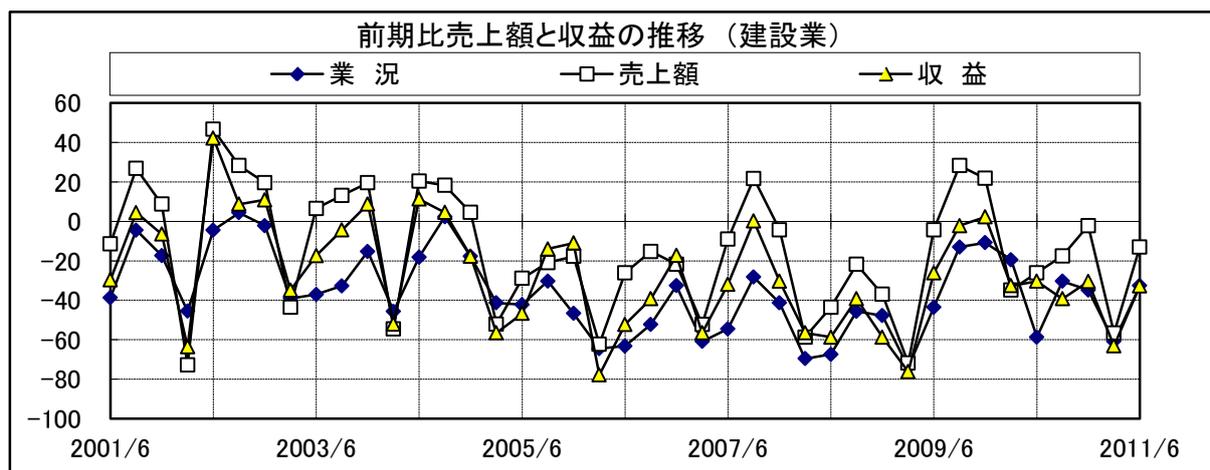
## 建設業 46企業（回答率 100.0%）の調査結果です

### □ 景況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-34.8	-60.9	-32.6	-32.6
売上額	-2.2	-56.6	-13.0	4.4
収益	-30.5	-63.1	-32.7	-10.9

今期の業況判断DI値は△32.6と、前期比マイナス値が縮小し28.3ポイントの改善となった。地区別にみると、静内、三石地区が横ばい、それ以外の地区では、改善している。

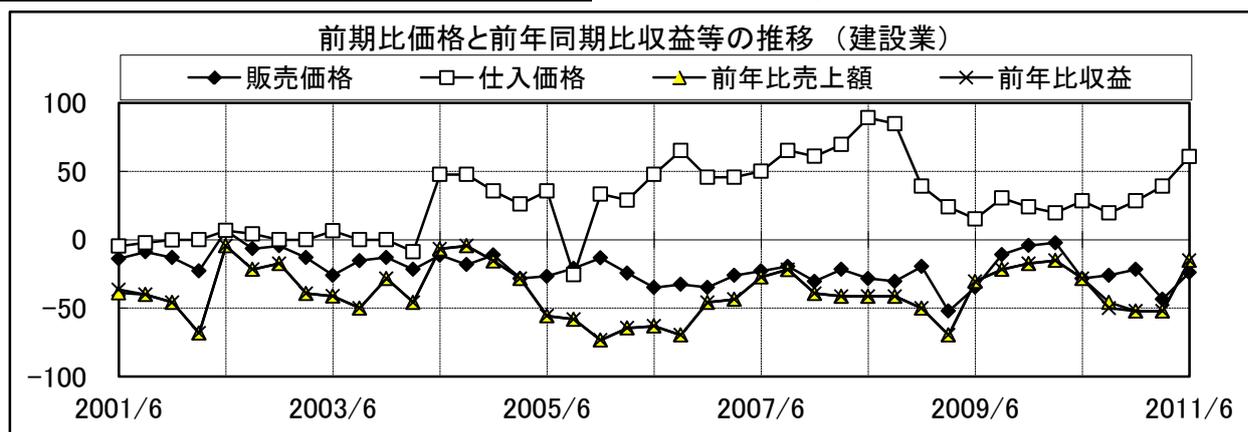
売上額、収益判断DI値は、売上額が△13.0、収益が△32.7と、前期比それぞれマイナス値が縮小し43.6、30.4ポイント上昇した。



### □ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
請負価格	-21.7	-43.4	-23.9	-21.8
仕入価格	28.3	39.2	60.8	52.2

請負価格判断DI値(△23.9)は、前期比マイナス値が縮小し19.5ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI値(60.8)は、前期比21.6ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-10.8	-8.6	-30.4	-6.5
人手状況	-10.9	-8.6	4.3	-4.3

残業時間判断DI値は△30.4と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比21.8ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は4.3と、前期比マイナスからプラス値に転じ12.9ポイント上昇、人手「過剰」超となっている。

## □ 設備投資の動き

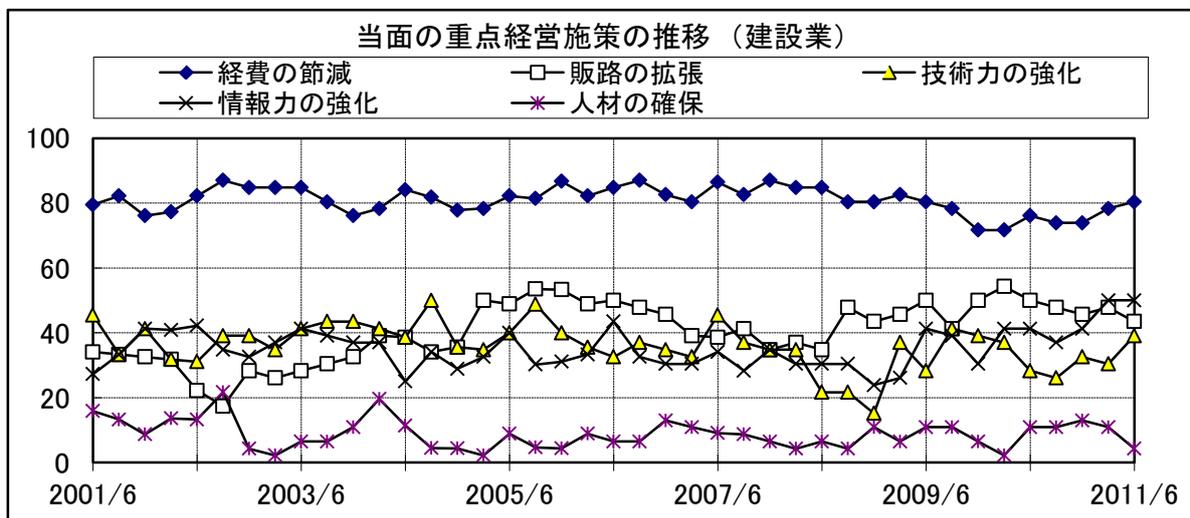
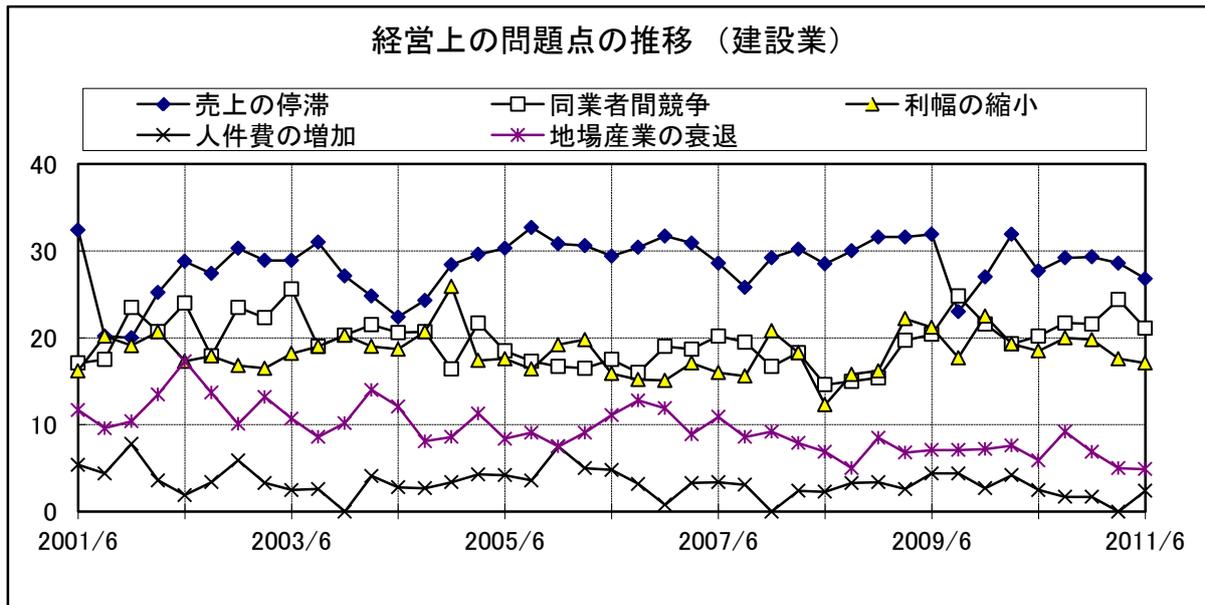
設備投資の充足感を示すD I 値は0.0と、前期(△2.1)のマイナスから2.1ポイント上昇、適正と回答した企業は74.0%と、前期(76.1%)から2.1ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は30.4%と、前期(21.7%)比8.7ポイント上昇、件数で前期の10社に対し14社の実施となった。来期予定は当期比3社減の11社となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ26.8%、次いで「同業者間との競合」21.1%、「利幅の縮小」17.1%、「材料価格の上昇」9.8%の順に続く。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ80.4%、次いで「情報力の強化」50.0%、「販路を広げる」43.5%の順となっている。



## □ 来期の見通し

来期(平成23年7~9月期)の予想業況判断D I 値は△32.6と、今期と同比率の見通しとなっている。

予想売上額判断D I 値は、今期実績比売上額が4.4(今期△13.0)と、マイナスからプラス値に転じ17.4ポイントの上昇見通し。予想収益判断D I 値は、△10.9(今期△32.7)と、マイナス値が縮小し21.8ポイント上昇見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D I 値は、請負価格が△21.8(今期△23.9)と、今期実績比マイナス値が縮小し2.1ポイント上昇、価格低下基調が弱まる見通し。一方、仕入価格は52.2(今期60.8)と、プラス値が8.6ポイント低下の見通しとなっている。

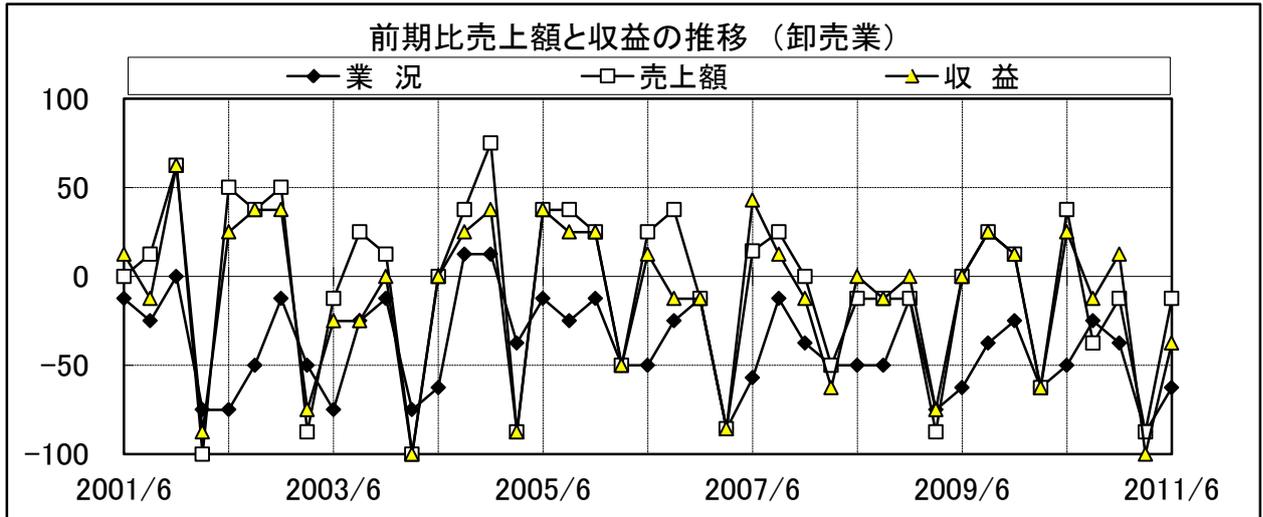
# 卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

## □ 景況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-37.5	-87.5	-62.5	-37.5
売上額	-12.5	-87.5	-12.5	-37.5
収益	12.5	-100.0	-37.5	-50.0

今期の業況判断DI値は△62.5と、前期比マイナス値が縮小し 25.0ポイントの改善となった。地区別にみると、静内、様似地区が改善し、浦河、三石地区は横ばいとなっている。

売上額、収益判断DI値は、売上額が△12.5、収益が△37.5と、前期比それぞれマイナス値が縮小し、75.0、62.5ポイント改善した。

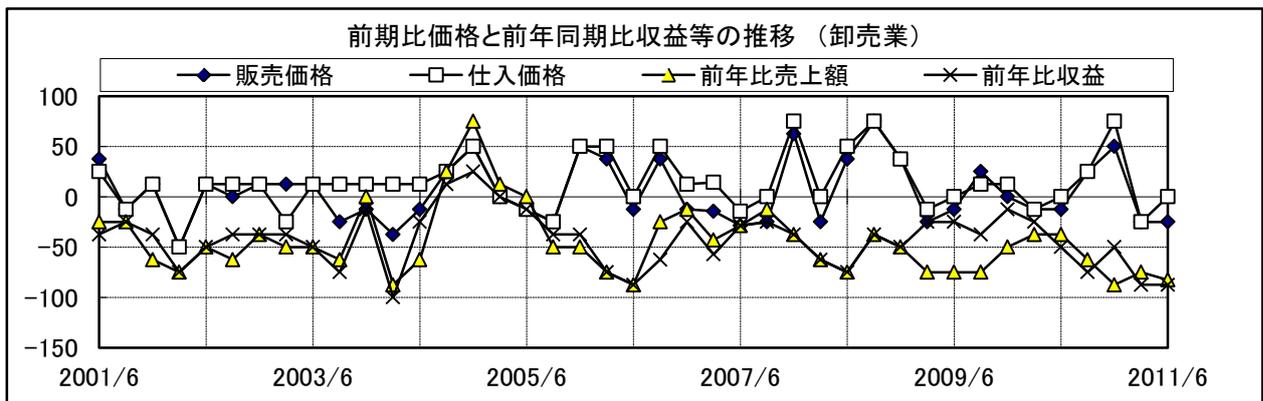


## □ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	50.0	-25.0	-25.0	-37.5
仕入価格	75.0	-25.0	0.0	-12.5

販売価格判断DI値(△25.0)は、前期比横ばいとなっている。仕入価格判断DI値(0.0)は、前期比価格低下基調を弱めマイナスからゼロ値に転じ 25.0ポイント上昇した。業種別にみると、農林・水産が販売、仕入価格ともに上昇、食品が販売価格

で低下、仕入価格で上昇となっている。



## □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	0.0	-12.5	-12.5	-12.5
人手状況	12.5	37.5	37.5	12.5

残業時間判断DI値は△12.5と、残業時間が減少したとする企業割合が前期比同率となった。

人手過不足判断DI値も 37.5と、前期比同率の人手「過剰」超となっている。

## □ 設備投資の動き

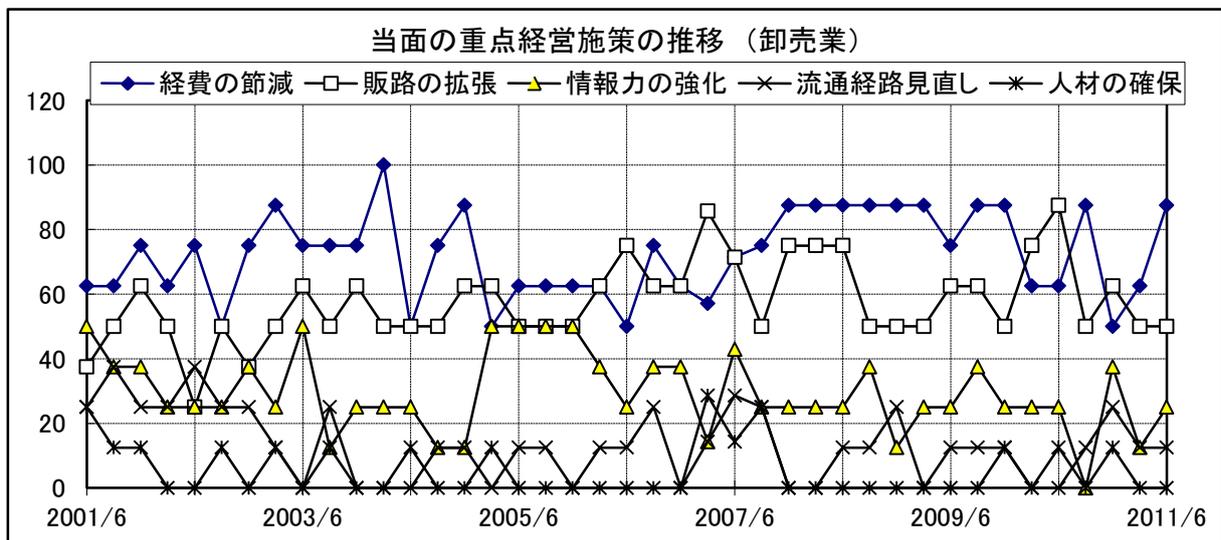
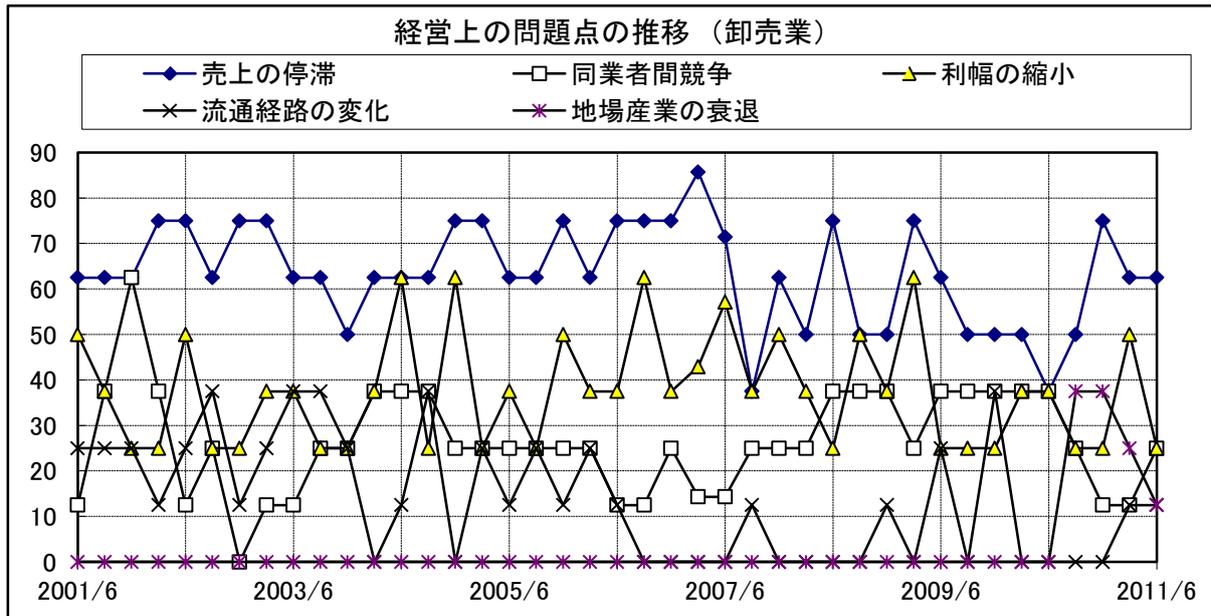
設備投資の充足感を示すD I 値は 12.5 と、前期比同値の過剰感を示し、適正と回答した企業は 62.5%と、前期(87.5%)から 25.0 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 12.5%と、前期同数の 1 社となった。来期予定は当期比横ばいの 1 社となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」62.5%、次いで「取引先の減少」50.0%、「同業者との競合」「利幅の縮小」が 25.0%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」87.5%、「販路を広げる」50.0%を挙げ、次いで「情報力の強化」25.0%の順となっている。



## □ 来期の見通し

来期(平成 23 年 7~9 月期)の予想業況判断D I 値は△37.5 と、今期(△62.5)実績比 25.0 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額が△37.5(今期△12.5)、収益が△50.0(今期△37.5)と、今期実績比それぞれマイナス値が拡大し 25.0、12.5 ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、販売価格が△37.5(今期△25.0)、仕入価格が△12.5(今期 0.0)で、ともに 12.5 ポイント低下し価格低下基調が強まる見通しとなっている。